# ナショナル
# ギャラリー
# コレクション
# プレスパック

THE
NATIONAL
GALLERY

# はじめに

## ナショナルギャラリーは世界有数の西洋絵画コレクションを所蔵しています。

ナショナルギャラリーは中世期から 20 世紀初めまでの 2,300 点以上の作品を所蔵しています。ティツィアーノ、モネ、ベラスケス、レンブラント、ゴッホなど中世末、ルネサンス期のイタリア絵画からフランス印象派まで西洋絵画の各派を代表する主要な画家の作品を展示しています。

ナショナルギャラリーのコレクションは王室コレクションの由来ではなく、寄付された絵画を基礎としている点で世界の他の一流美術館とは異なっています。1823 年に風景画家で美術品収集家のジョージ・ボーモントから絵画コレクションを国家に寄贈したいとの申し出がありました。しかしナショナルギャラリーの最初のコレクションとなったのは、銀行家で美術後援家だったジョン・ジュリアス・アンガースタインが生前に収集していた作品でした。1824 年、英国議会の下院がクロード、レンブラント、ヴァン・ダイクらの絵画を含むアンガースタインのコレクションを購入しました。ナショナルギャラリー創設者らは若手の芸術家を鼓舞する教育の場として、また一般の人々が広く絵画に接することのできる場所として、国立の美術館を設立することを望んでいました。今日、ナショナルギャラリーは当時の意思を受け継ぎ、国家が所有する絵画コレクションを将来の人々のために保存し、保護することに力を注いでおり、無料でコレクションを一般公開しています。

ナショナルギャラリーはロンドンのウェストエンド、東地域のいずれの居住者にとっても便利が良いロンドンの中心地にあり、ロンドン市内ならびに英国国内、世界各地より年間 500 万人以上の入場客をお迎えしています。常設展のほか、特別展、ワークショップ、講演、講義など様々な催し物を企画しており、金曜日には開館時間を延長しています。

ナショナルギャラリーは常に進化しています。コレクションは新しい作品の獲得、寄託、国家への遺贈を通じ拡大されます。一方でギャラリーはコレクションや入場客のニーズにも敏感に対応しています。ナショナルギャラリーでは来館のお客様にオリエンテーション、くつろぎ、休憩の場所を提供することが重要なように、絵画に対してはそれを科学的な方法によりケアし保存することが大切であると考えています。

# コレクション概要

## 13 世紀から 15 世紀

*ドゥッチョ、ウッチェロ、ファン・エイク、リッピ、マンテーニャ、ボッティチェリ、デューラー、メムリンク、ベッリーニ*

現在残存する中世後期の絵画のほとんどは宗教画で、教会の祭壇や個人祈祷のために描かれたものです。絶妙に装飾された金箔のバックグラウンドをもった作品が多数あります。15 世紀には、肖像画のほか、古代史や神話の場面を描いた絵画の重要性が高まりました。また写実主義の流れで宗教的な主題の扱い方にも変化が起こり、人物の姿をしばしば現実的な建築物または風景画に描くようになりました。油絵画法などの技術の進歩により顔の表情や表面の質感をより微妙に描写できるようになりました。

## 16 世紀

*レオナルド、クラナッハ、ミケランジェロ、ラファエロ、ホルバイン、ブリューゲル、ブロンツィーノ、ティツィアーノ、ヴェロネーゼ*

この時代の一流画家は今日も揺るぎのない賞賛を浴びています。特にイタリアにおいてはルネサンス期の画家が古代ギリシャ、ローマの画家に匹敵するまたは、それに勝るべく名声を求めました。肖像画が高く評価され、古代を題材にした歴史画や神話画はキリスト教画とほぼ同様に重要視されるようになりました。絵画は題材だけではなく、その芸術性の真価が認められるようになり、しばしば特別に設計された展示室に置かれるようになりました。

## 17 世紀

*カラヴァッジョ、ルーベンス、プッサン、ヴァン・ダイク、ベラスケス、クロード、レンブラント、カイプ、フェルメール*

この時期の画家は過去にインスピレーションを求めるだけではなく、同時に華やかさ、簡素さなどの自己のスタイルを添えるようになりました。宗教的な題材は鑑賞者の感情に訴えることができるよう、真新しい方法で描かれるようになりました。オランダでは静物画、風景画のほか、優雅な社交の場や、居酒屋でのにぎやかな場面など日常生活の場面を写し出す絵の専門画家が大いに人気を集めました。

## 18 世紀から 20 世紀初期

*カナレット、ゴヤ、ターナー、コンスタブル、アングル、ドガ、セザンヌ、モネ、ゴッホ*

教会や宮殿を飾る崇高な絵画の制作は続いたものの、画商や展覧会で展示、販売するための小規模な作品を描くことがより一般的となってきました。19 世紀においては様々な画家の流派（類似した様式の作品を創作する画家を大まかにグループ分けしたもの）が誕生しました。また正式な芸術組織に反抗する独立系の芸術家も現れました。

# コレクションの略史

**1824 年**　ナショナルギャラリーコレクションの最初の絵画コレクションは銀行家で美術品収集家のジョン・ジュリアス・アンガースタインが生前に収集したものでした。4 月 2 日、英国議会の下院は 60,000 ポンドでこの 38 点の絵画を購入することを決定しました。コレクションにはセバスティアーノ・デル・ピオンボの大規模な祭壇画であるラザロの蘇生をはじめとするイタリア派の作品のほか、オランダ派、フランドル派、イギリス派の傑作が含まれていました。

**1826 年**　1823 年風景画家で美術品収集家のジョージ・ボーモント（1753 ～ 1827）が絵画の展示と保存に相応しい建物が提供されるという条件で絵画コレクションを国家に寄贈することを約束しました。

1826 年にボーモントより絵画コレクションが寄贈され、1838 年全コレクションがトラファルガー広場に移動されるまで、アンガースタイン・コレクションとともにペルメル街で展示されました。ボーモント・コレクションにはレンブラントのキリストの哀悼、ルーベンスの *A View of Het Steen in the Early Morning*、カナレットの *The Stonemason's Yard*、デヴィッド・ウィルキーの *Blind Fiddler*（現在はテートコレクション）のほか、クロードの作品数品が含まれます。クロードが制作した *Landscape with Hagar and the Angel* に強い愛着心を抱いていたボーモントは、死に至るまでナショナルギャラリーからこの作品の貸与を受けていました。

**1826 年**　政府がカラッチによる *Christ appearing to Saint Peter on the Appian Way*、プッサンの *Bacchanalian Revel before a Term* ならびにティツィアーノ制作の *Bacchus and Ariadne* を購入することを決定しました。

**1831 年**　ウィリアム・ホルウェル・カーよりティントレット制作の *Saint George and the Dragon*、レンブラント作 *A Woman Bathing in a Stream* を含む大規模なコレクションが寄贈されました。カーはこのコレクションを収蔵するのに相応しい建物の建設を要求しました。ペルメル街 100 番地の取り壊しが予定されましたが、建築家ナッシュによるチャーリングクロス地域の開発計画は資金不足を理由に取り止めとなりました。

**1837 年**　コンスタブルの *Cornfield* が寄付されました。

**1838 年**　コレクションはウィルキンスの設計によるトラファルガー広場の新しい建物に移動されました。

**1855 年**　チャールズ・ロック・イーストレイクが初代館長に任命され、評議員会の援助を受けコレクション全体とギャラリー運営の責任を負うことになりました。

イーストレイクはヨーロッパ大陸の各地を訪れギャラリーに相応しい絵画を捜し求めました。イーストレイクは館長を務めた 10 年の間、ギャラリーのイタリア絵画のコレクションをより幅広く充実させ、世界有数のコレクションとなるよう努力を重ねました。イーストレイクが購入した作品にはボッティチェッリの *Adoration of the Kings*、ウッチェロの *Battle of San Romano* などが含まれます。

**1856 年**　ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナーより *The Fighting Temeraire*、*The Evening Star*、*Rain, Steam and Speed – The Great Western Railway* を含む絵画、デッサン、水彩画が遺贈されました。

**1871 年**　後任の館長ウィリアム・ボクサルはピール・コレクションから 77 点の絵画を 75,000 ポンドで獲得することに成功しました。ホッベマの *Avenue at Middelharnis*、ルーベンス作 *Chapeau de Paille* などのオランダ派、フランドル派の絵画を主とし、コレクションに新しい側面が加わりました。

**1897 年**　National Gallery of British Art（現在のテート・ブリテン）が開館しました。イギリス人芸術家による作品が多数ナショナルギャラリーのコレクションに加えられましたが、イギリス美術の傑作の一部のみトラファルガー広場に展示し、残りのほとんどはミルバンクに移管されました。

**1905 年**　アートファンドを利用して、45,000 ポンドを調達し、ベラスケスの *The Rokeby Venus* を他の買い手より高値をつけて購入しました。

**1910 年**　ジョージ・ソルティングよりオランダ派、フランドル派、ネーデルランド派、イタリア派ならびに他の大規模なコレクションが寄贈されました。192 点の絵画からなるこのコレクションはギャラリーが現在までに受けた寄贈の中で最も規模が大きいものです – うち 164 品は現在もナショナルギャラリーにより保持されています。

**1914 年～1918 年**　第一次世界大戦中、1917 年よりコレクションはストランド地下鉄駅に保管されました。

**1918 年**　レーンよりルノワールの傘を含めた印象派の作品 33 点が寄贈されました。寄贈の作品はアイルランド、ダブリンのヒュー・レーンギャラリーと共有されることになりました。

**1924 年**　サミュエル・コートールドからの 50,000 ポンドの寄付金により、スーラの*アニエールの水浴*、ゴッホの*ひまわり*を獲得しました。モンドからラファエロの*磔刑図*を含む 42 点の絵画が寄贈されました。ギャラリー史上 2 番目に大規模な寄贈です。

**1939 年～1945 年**　第二次世界大戦：コレクションはウェールズのマノド採石場にて保管されました。

**1962 年**　アートファンドと公からの寄付によりレオナルド・ダ・ヴィンチのカートゥーン、*聖アンナと聖母子*、*洗礼者ヨハネ*が購入されました。この作品は購入後 4 ヶ月で 25 万人もの入場客により鑑賞されました。来館のお客様の多くはギャラリーに寄付金を納めてくれました。

**1985/6 年**　ジョン・ポール・ゲッティ（ポール・ゲティ）より 5,000 万ポンドが寄付されました。

**1999 年**　デニス・マホンからの寄託：顕著な美術史家、収集家で元ナショナルギャラリー評議員務めたマホンよりイタリアバロックの絵画 28 点が長期寄託されることが決定しました。このコレクションにはグイド・レーニ、ドメニキーノ、ルカ・ジョルダーノ、ヨハン・リスの傑作などが含まれます。

**2004 年**　ヘリテージ・ロッタリー・ファンド、アートファンド（Wolfson Foundation からの寄付金を含む）、American Friends of the National Gallery、ジョージ･ボーモント･グループ、クリストファー･オンダーチェによる援助と一般からの寄付金でラファエロの *Madonna of the Pinks* が購入されました。

**2006 年**　サイモン・セインズベリより 5 点の絵画が寄贈されました。これにはモネの作品 *Snow Scene at Argenteuil* と *Water-Lilies, Setting Sun* の 2 点とポール・ゴーギャン作 *Bowl of Fruit and Tankard before a Window* が含まれます。

**2009 年**　スコットランド政府、ナショナル･ヘリテージ･メモリアル･ファンド、モニュメント･トラスト、アートファンドからの援助と募金活動を通じ、スコットランド国立美術館と共同でティツィアーノのディアナとアクタイオンが 5000 万ポンドで購入されました。

絵画はスコットランド国立美術館とロンドンのナショナルギャラリーで共有され、5 年間ずつ順番で各々のギャラリーで展示されることになっています。

**2012 年**　ヘリテージ・ロッタリー・ファンド、アートファンド、モニュメント・トラストによる特別補助金ならびに私人と企業からの寛大な寄付により、ティツィアーノの傑作 *Diana and Callisto* がスコットランド国立美術館と共同で獲得されました。

# 建物について

ナショナルギャラリー、100 ペルメル街

## 1824 年 最初のコレクション

1824 年 4 月、英国議会の下院が銀行家のジョン・ジュリアス・アンガースタインの絵画コレクションを 60,000 ポンドで購入することを決定しました。38 点の絵画コレクションは国民のための新しいコレクションの中心として、一般の人々に楽しんでもらうとともに、教育的役割も果たすことを目的としていました。1824 年 5 月 10 日に新しいナショナルギャラリーが開館され、無料で一般の人々が絵画に接することができるようになりました。絵画は専用ギャラリーが建設されるまで、ペルメル街 100 番地のアンガースタインのタウンハウスに展示されていました。

開館後 6 ヶ月で 24,000 人の入場客がギャラリーを訪れ当時としてはたいへん賑わいました。政府の要請で絵画に値を付けたウィリアム・セギエが管理人に任命されました。

建物の大きさはパリのルーブル美術館などの他の国立美術館と比べ劣っており、新聞等で酷評されました。

## 1831 年 用地の決定

1831 年、議会はウィリアム・ウィルキンスの設計による新しい美術館をトラファルガー広場に建築することを決定しました。ナショナルギャラリーに相応しい場所を決めるために長い間、議論が続いた後、ようやくロンドン中心部にあり便が良いトラファルガー広場が適当であると判断されました。

王立厩舎、ナショナルギャラリー

ナショナルギャラリーは王室厩舎跡の広場に位置しています。ウィリアム・ウィルキンスはナショナルギャラリーの建築に厩舎の建設方式を多く用いました。

1826 年、摂政皇太子の邸宅である近くのカールトンハウスが取り壊されました。しかし見事な列柱は保存されることになり、ウィルキンスは新しいナショナルギャラリーの建物に 8 本の列柱を流用することにしました。しかしながら結局それらはナショナルギャラリーの中央ポルチコには小さすぎることがわかり、東面ポルチコと西面ポルチコに使用されたと考えられています。

ウィルキンス制作の彫板、ナショナルギャラリー – チャリングクロス、1927 年頃

## 1838 年 ナショナルギャラリーが開館

新しいナショナルギャラリーの建物が 1838 年ビクトリア女王出席のもと開館されました。東館はロイヤル・アカデミー・オブ・アーツが使用していました。中央大階段を境にし、西館のナショナルギャラリーと分かれていました。

1868 年、ロイヤル・アカデミーがピカデリー通りの建物に移転すると、その分ナショナルギャラリーのスペースに余裕ができました。

ナショナルギャラリー内部、1876年

## 1876 年 増築

ナショナルギャラリーの建物は非常に厳しい世論の批判を浴びていました。1868 年、建築家 E. M. バリーはトラファルガー広場のギャラリーを完全に建て直すための設計案を提出するよう依頼されました。

しかしながら長い議論の末、建物はそのまま残したまま、新館を増築することが決定されました。1876 年に新館が完成し、見事なドームと展示室 7 室が東側に設置されました。

1910 年に完成した新ギャラリー

## 1896 年～1897 年 ナショナルポートレートギャラリーが移転、テートギャラリーが開館しました

1857 年に開館したナショナルポートレートギャラリーは、1890 年にナショナルギャラリーの後ろの用地に移動することが決定し、1896 年にオープンしました。テートギャラリーはその翌年にヘンリー・テートの個人コレクションとナショナルギャラリーのイギリス絵画の展示のため開館されました。

## 1911 年 増築

ナショナルギャラリー評議員会はギャラリー拡張用の建設用地の獲得に長い間骨を折りました。当時ギャラリーはかなり狭くなってきていました。ついに 1907 年にギャラリー裏の兵舎が空き、展示室 5 室の建設作業が開始されました。新展示室は 1911 年に一般にオープンされました。

## 1928 年～1933 年 モザイク

ナショナルギャラリーのメインロビーの床に『The Labours of Life』と『The Pleasures of Life』を描いたロシア人アーティストのボリス・アンレプ（1883 ～ 1969）のデザインによるモザイクが 2 つ敷かれました。1952 年、アンレプは 3 つ目のモザイク『The Modern Virtues』を敷きました。完成されたモザイク 3 点は混み合った公の場を通り過ぎるたくさんの人々の足元をキャンバスに日常生活を見事に描写しています。

アンレプ作モザイク

爆弾の被害を受けたナショナルギャラリーの屋根

## 1939 年～1945 年 第二次世界大戦

1939 年 8 月 23 日、水曜日、第二次世界大戦勃発直前にナショナルギャラリーは閉鎖に踏み切りました。その当時再開館の予定はまったく不明でした。

戦時中コレクションはすべてウェールズのマノド採石場に移動させられました。ギャラリーは 1940 年に爆弾の被害を受けました。

偉大な画家の絵画を鑑賞することはできないものの、ギャラリーは著名なピアニスト、マイラ・ヘスによるランチタイムコンサートを楽しむお客様で賑わいました。また特別展覧会も数々企画されました。

セインズベリ棟外観

## 1975 年 北ギャラリーの増築

1975 年の北ギャラリーの増築では、大展示室 9 室、小さめのキャビネットルーム 3 室が建てられ、展示スペースに余裕ができました。これらの新しい展示室はできる限り自然光を利用するようになっています。

## 1991 年 セインズベリ棟

1985 年ジョン、サイモン、ティモシーのセインズベリ 3 兄弟からギャラリーの新館の建築費用のため寛大な寄付を受けられることが決定しました。

第二次世界大戦中、家具屋が爆弾で破壊されて以来、ギャラリーのすぐ横の敷地が空いていました。1991 年に完成したセインズベリ棟ではルネサンス期のコレクション全作品が展示されています。

## 2004 年～ 2006 年 東館の開発

本プロジェクトの最初の段階としてポール・ゲッティ・エントランスが完成しました。これにより初めて来館のお客様がトラファルガー広場からメインビルディングへ直接入館できるようになりました。第 2 段階としてメインロビーの再開発と J. D. Crace により設計されたステアケース・ホールの天井画（19 世紀オリジナル）の修復が行われました。

アンネンバーグ・コート、ローワーホール、東館

## 現在

セインズベリ棟の完成後、ナショナルギャラリーの総フロア面積は 46,396m$^2$ となりました。これはおよそサッカーフィールド 6 面分に相当し、ロンドンのダブルデッカーバスが 2,000 台以上入る広さです。

すべての画像 © The National Gallery, London

© The National Gallery, London

# ナショナルギャラリー館長

ニコラス・ペニーは 2008 年にナショナルギャラリーの館長に就任しました。

ペニーは 1990 年から 2000 年の間、ナショナルギャラリーにてルネッサンス絵画部門のクロアキュレーターとして勤務しました。その後ワシントンナショナルギャラリーの Center for Advanced Study in the Visual Arts で Andrew W. Mellon 教授を務め、2002 年から 2007 年の間、彫刻および装飾美術のシニア・キュレーターを務めました。

コートルード･インスティテュートで博士号を取得した後、ペニーはマンチェスター大学で美術史の講師を務めました。博物館での最初の仕事はオクスフォードのアシュモレアン博物館の西洋絵画部門のキーパーでした。

ペニーは、絵画、彫刻、収集、鑑識の歴史に関する多数の書物および記事を執筆しています。著作物には学術カタログ、学生向けの入門テキスト、一般読者のための批評などが含まれます。

# ナショナルギャラリーの研究活動

## 研究活動について

研究活動は下記のようなギャラリーの数多くの役割をサポートするために、絶え間なく行われている重要な活動です：

- 展覧会、学術カタログ他の出版物
- 絵画のケア、保存
- 絵画の展示、解釈

研究活動の成果は、一般の人々がナショナルギャラリーの絵画について理解を深めるのに役立ちます。ナショナルギャラリーの見事なコレクションは世界でももっとも綿密に調査され、徹底的に研究されたコレクションの一つです。

## 絵画研究

ナショナルギャラリーは 13 世紀から 20 世紀初期の西洋絵画に関する傑出した研究センターとして知られています。しかし、絵画コレクションのもっとも有名な作品についても、未だ発見されていない事実が存在するのも本当です。

ギャラリーは常時以下のような調査活動を行っています：

- 絵画がだれにより、いかに創作されたか、創作の理由、時期、場所
- だれにより絵画の創作が依頼されたか、だれが収集したか
- 絵画がどのように使用されたか
- 絵画の意味

徹底的な調査の成果を基にして公と共有する情報をまとめ、新発見がある場合など定期的に情報を更新しています。

## 絵画のケア

ギャラリーの保存部門はキュレーターと修復科学者と提携し、末永く入場客にコレクションを楽しんでいただけるよう努力を重ねています。保存部門の仕事には絵画のコンディション、ギャラリー内の照明、温度、湿度のコントロールを定期的に検査することなどが含まれます。絵画修復技術者は大掛かりな修復作業も行っており、中には修復に何ヶ月、何年もの年月がかかる作品もあります。

絵画の洗浄や修復作業は一枚一枚ギャラリーの評議員会により承認を受けます。作業段階は細かく監視され、多数の写真を使用して文書化されます。絵画表面の修復作業は絵画修復技術者の仕事の中でもよく知られていますが、支持体（パネルやキャンバス）の処置も同様に重要な作業です。

絵画修復技術者は修復科学者やキュレーターと密に提携し、各々の絵画についてもっとも相応しい処置方法を決定します。またコレクションに含まれる画家が使用した技術についての調査も共同で行います。

## 保存の科学

絵画の綿密な研究や、保存修復処置を行う場合、近代的な科学的方法が大いに役立てられます。高倍率の顕微鏡と絵の具の微小なサンプルの化学分析により、絵画の制作に使用された顔料や媒体、レイヤー構造についての事実を発見することができます。

X 線ラジオグラフィーと赤外線反射光を使用した検査では絵画表面の下地層にある下準備の状態を見ることができ、しばしば画家の思考が浮き彫りになります。

ナショナルギャラリーのキュレーター、修復科学者、絵画修復技術者による新しい研究の詳細は毎年『National Gallery Technical Bulletin』に掲載されます。（オンラインでも購入が可能）

## ギャラリーの学識経験者

ナショナルギャラリーでは従来よりキュレーター、修復科学者、絵画修復技術者ならびにアーキビストの専門チームの間における学究的な提携関係の構築と維持に努めています。ギャラリーのコレクションカタログは同類の出版物の規範となる基準を設定することで国際的に認められています。

絵画の科学的調査に関する学術的記事は発刊 30 年目を迎えた定期刊行物『National Gallery Technical Bulletin』に掲載されます。

ナショナルギャラリーは活気ある美術史家コミュニティーの中心的存在としてその役割を果たしています。他の組織と連携し、ナショナルギャラリーは国内外の西洋映画の研究をサポートし、エクセレンスを促進することに力を入れています。

ナショナルギャラリーではしばしば外部パートナーと共同の企画を実施しています。展覧会のゲストキュレーター役や、コンファレンスやセミナー等のアクティブプログラムでの研究発表を他団体所属の学者に依頼し、ギャラリーの学識の洗練に努めています。

ナショナルギャラリーは Arts and Humanities Research Council ならびに Engineering and Physical Sciences Research Council によって独立した研究機関として認められています。

# ナショナルギャラリーの教育活動

教育活動部門はおよそ 30 年前に設置されました。様々なプログラムを企画し、ナショナルギャラリーのコレクションがいかに一般の人々の創作心を鼓舞するかその可能性を追求しています。ナショナルギャラリーはコレクションの楽しみ方をすでに理解している方々だけではなく、大衆全体に対し責任を負っていると考えています。

## アウトリーチ

コレクションへのアクセス提供に関するより幅広い戦略目標の一環として、ナショナルギャラリーでは多様な背景を持つ一般の人々のコレクションに対する興味を育むため、啓発的で想像力に富んだ方法を模索することに力を入れています。

ギャラリーのアウトリーチ・プログラムはこの目標の達成する上で特別な役割を果たしています。アウトリーチ・プログラムは主要コミュニティグループを対象としています。通常の教育施設を介してナショナルギャラリーのコレクションに接しようとした場合、物理的、社会的、感情的、知的な面で困難にぶつかる可能性のある人々に対し、独創的な方法を用い感情に訴えかけるような企画をしています。

インタラクティブなアウトリーチ・プログラムを幅広く提供することにより、ギャラリーは常に自分は除外されていると感じる人々がナショナルギャラリーのコレクションと接し、それに触発されるよう励まします。

## 大学生、大学院生

ナショナルギャラリーのスタディ･セッションは特に大学生､大学院生を対象とした展覧会入門講座です。キュレーターや画家による講演、討論会、展覧会の鑑賞などが含まれます。

ナショナルギャラリーは他の機関と協力し、様々な専門分野の学生を対象としたプロジェクトを企画しています。最近ではナショナルギャラリーのコレクションに鼓舞され、音楽を作曲し、その曲がロンドン室内管弦楽団により演奏された学生がいました。

## 学校

ナショナルギャラリーは小中学校や高校に技術を備えた経験豊かなギャラリー教育担当者を多数おくり、学校教員や生徒がギャラリーのコレクションと接する機会を提供しています。絵画鑑賞は学校カリキュラム全体において子どもたちの学習体験をより豊かにするのに役立ちます。ギャラリーを訪れることにより、絵画の解釈方法、芸術の楽しみ方を学ぶことができ、また美術がいかに他の科目や自分の体験に関連しているかを発見することができます。

## Take One Picture

『Take One Picture』プログラムはイギリスの小学校を対象に、ナショナルギャラリーのコレクションから 1 枚の絵画を課題作品として選び、学習カリキュラム全体においてそれを教材として使う企画です。毎年ナショナルギャラリーの絵画から 1 点が選ばれ、それを基に子供たちが創作活動を繰り広げます。1995 年にスタートして以来、何百校もの学校がこの取り組みに参加しています。多くの学校よりその絵を基に創作した作品が届き、それらは年に 1 度の Take One Picture exhibition で展示されます。

## 成人教育

ギャラリーでは毎日、成人の入場客向けに無料の講演、ツアーを実施しています。討論会、ディスカッショングループ、短期コース、スタディーデー（勉強会）などの企画はナショナルギャラリーの絵画を理解し、奥深く探究する良い機会を提供するものです。創作に興味がある方を対象にした、ランチタイム Talk and Draw アクティビティ（無料）、写生、版画、彫刻の 1 日ワークショップなども実施されています。

## ファミリー

毎週日曜日にお子様連れのお客様が家族でいっしょに楽しく学べる特別アクティビティを幅広く提供するファミリー・サンデーが企画されています。 5 歳未満のお子様を対象にしたお話会『Magic Carpet』、5 歳から 11 歳までのお子様連れのご家族を対象としたワークショップほか、ギャラリー散策、オーディオツアーが企画されています。

# ナショナルギャラリーで用意されている外国語でのご案内

**オーディオガイド**

「60 分ツアー」

ギャラリーのハイライトをご紹介しています。英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポーランド語、ポルトガル語、オランダ語、日本語、中国語（北京語）ならびに韓国語で用意されています。

**フロアプラン**

英語、中国語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で用意されています。

アラビア語、ギリシャ語、ヒンディー語でウェルカムパンフレットが用意されています。

**コンパニオン・ガイド**

コレクションをご紹介するガイドです。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、スペイン語で用意されています。

**ナショナル・ギャラリーの名画**

英語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポーランド語、ロシア語ならびにスペイン語で用意されています。

**ビジターガイド**

中国語、フランス語、イタリア語、日本語、ロシア語、スペイン語でガイドブックで用意されています。

# ナショナルギャラリーのあまり知られていない事実トップ 10

## 総フロア面積

46,369m$^2$ の総フロア面積はサッカーフィールド 6 面分に相当します。建築容積は 212,615m$^3$ で、ロンドンのダブルデッカーバスを 2,156 台収容できる大きさです。

## コレクションの規模

ナショナルギャラリーは 2,300 点以上に上る作品を所蔵しており、そのほとんどが常時展示されています。

## 入場客数

ナショナルギャラリーには毎年 500 万人を超える入場客が訪れます。教育活動部門は年間 80,000 人の子どもたちを迎えています。

## 彫刻

正面入り口の彫刻はもともとはマーブル・アーチに使用される予定のものでした。

## 最初の絵画

ナショナルギャラリーのコレクションの最初の 1 点で収蔵番号（NG1）を与えられた作品はセバスティアーノ・デル・ピオンボ作*ラザロの蘇生*で 1824 年に遺贈されたものです。

コレクションの中で最小の作品
未詳のフランス人画家によるチャールズ・エドワード・スチュワート王子（ヤングプリテンダー）、7.6cm x 7cm

ギャラリーで最大の作品
グイド・レーニ作羊飼いの礼拝、480cm x 321cm

大きさ
スタッブス作ホイッスルジャケットは等身大の馬を描いた作品です。

インスピレーション
ジョン・テニエルが描いた不思議の国のアリスの公爵夫人の挿絵はマサイスの *An Old Woman*（醜女の肖像）に触発されたものです。